

① 土砂災害の防止

～生命や財産を守るために～

平成22年度の主な取組状況

●土砂災害防止施設の整備

土砂災害危険箇所において、砂防事業、地すべり対策事業、急傾斜地崩壊対策事業等を実施し、22年度は県下で29箇所の対策工が完成しました。

**新たに243戸
の人家を保全**



【火山砂防事業：弁分川(国東市)】

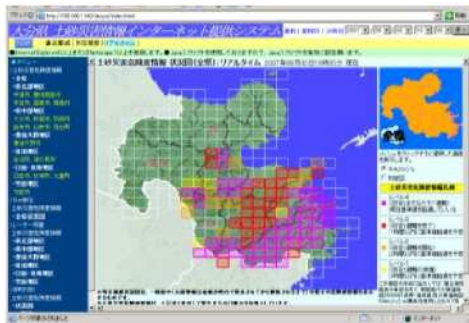


【急傾斜地崩壊対策事業：徳納地区(佐伯市)】

●減災に向けたソフト対策の推進

減災に向けたソフト対策の取り組みとして、雨量情報、大分地方気象台と連携した「土砂災害警戒情報」、「土砂災害危険度情報」等の防災情報を、県のホームページや携帯電話を利用したメール配信などにより提供しています。また、街頭での啓発活動や小学生を対象とした一日砂防教室の開催、NPO法人大分県砂防ボランティア協会と協働した災害時要援護者施設への直接訪問や自然災害防止に関する説明会等、土砂災害防止について啓蒙・啓発を行いました。

【土砂災害危険度情報】



【砂防展示会】



【一日砂防教室】



【災害時要援護者施設訪問】



【自然災害防止説明会】

●土砂災害警戒区域等の指定状況

(H23.3.31現在)

	土石流	急傾斜	合計
土砂災害警戒区域	594	767	1,361
うち土砂災害特別警戒区域	489	760	1,249

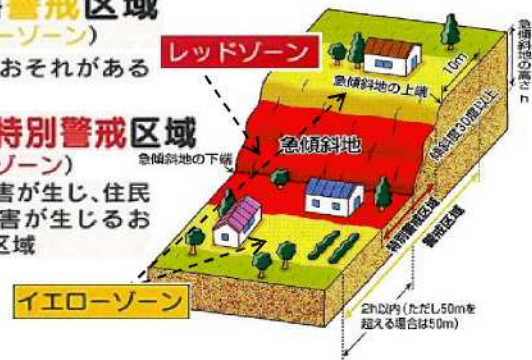
土砂災害から住民の生命を守るため、土砂災害のおそれのある区域についての危険の周知、警戒避難体制の整備、住宅等の新規立地の抑制等のソフト対策を推進しています。

土砂災害警戒区域

(通称:イエローゾーン)
=土砂災害のおそれがある

土砂災害特別警戒区域

(通称:レッドゾーン)
=建築物に危害が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域



目標指標の達成状況

土砂災害から守られる 人家戸数		10年前	H16年度 (計画時)	H22年度	H23年度	H27年度 (目標値)
	目標値a	—	—	25,400	25,749	26,800
	実績値b	10,352	22,281	25,501	—	—
達成率b/a	—	—	100.4%	—	—	—

業績評価

※土砂災害の危険性のある地域に存在する人家は、県下に約96,000戸

達成	弁分川砂防堰堤(国東市)や徳納地区急傾斜地崩壊対策(佐伯市)の完成など、計画的な整備を推進し、目標を達成しました。
----	---

② 浸水被害の防止

～台風や集中豪雨に負けない地域をめざして～

平成22年度の主な取組状況

● 県下における河川改修事業の実施

県民の生命、財産を災害から守り、安全で快適な生活基盤を整備するという基本方針の下で、21河川において改修事業を実施し、浸水被害の解消及び軽減を進めています。

稲葉ダム(竹田水害緊急治水ダム建設事業)の事業完了

昭和57年、平成2年の大水害を契機に建設を進めてきた稲葉ダムは、平成3年に着工して、平成22年度に完成しました。ダム完成後は稲葉川沿川の安全・安心が確保されると期待されています。



● 河川水位情報の提供

近年、局所的な集中豪雨が多発しており、中小河川での浸水危険箇所の周知や警戒避難のための情報提供などが求められています。

そこで、浸水による被害の軽減を図るため浸水想定区域の指定・公表し、区域内における円滑な警戒避難体制を確保するため、水位観測所を整備し水位情報を公表することにより、住民にわかりやすい防災情報の提供を図りました。(22年度に2箇所運用開始。)

また、県民安全安心メールに河川情報を追加したことにより、川が危険な状態になれば、メールを送信することにより、住民に危険を認知してもらうことが可能となりました。



目標指標の達成状況

		10年前	H16年 (計画)	H22年度	H23年度	H27年 (目標値)
時間50mmに対応できる河川(河川整備率)	目標値a	—	—	40.3%	40.7%	42.0%
	実績値b	33.1%	38.3%	39.7%	—	—
	達成率b/a	—	—	98.5%	—	—
床上浸水対策が必要な地域(地域数)	目標値a	—	—	24	23	20
	実績値b	58	50	22	—	—
	達成率a/b	—	—	109.1%	—	—

※改修が必要な河川は、県下に1,824km

業績評価

概ね達成	計画的な事業展開と早期の効果発現に努めた結果、河川整備率の進捗については概ね目標を達成しました。また、床上浸水対策については、稲葉ダムが完了したことから、目標を上回る達成率となりました。
------	---

④ 交通安全

～安心して利用できる道をめざして～

平成22年度の主な取組状況

●通学路の安全対策

22年度は、県下で約16kmの歩道等を整備し、児童・生徒の通学路の安全対策を行いました。

○中津高田線(下高家) 自転車歩行者道の整備例



●ボトルネック踏切の解消

踏切道が局所的に狭く、歩行者や自転車が危険な状況でしたが、自転車歩行者道を設置し、安全な通行空間を確保しました。

○国道500号(石垣)



●交通事故対策

警察本部と連携して、通行に危険な箇所の各種交通安全対策を行っています。

○佐伯弥生線(佐伯市)

○国道197号(大分市)



目標指標の達成状況

		10年前	H16年度 (計画時)	H22年度	H23年度	H27年度 (目標値)
死傷事故率 (件/億台km)	目標値a	—	—	71.4	70.9	69.0
	実績値b	76.8	74.2	62.3	—	—
	達成率a/b	—	—	114.6%	—	—
歩行者・自転車の 死傷事故件数	目標値a	—	—	1,618	1,604	1,550
	実績値b	1,611	1,699	1417.0	—	—
	達成率a/b	—	—	114.2%	—	—
指定通学路の歩道整備率	目標値a	—	—	56.0%	57.0%	59.0%
	実績値b	39.5%	50.6%	56.7%	—	—
	達成率b/a	—	—	101.3%	—	—

業績評価

達成	交通事故の発生状況は減少傾向にあります。引き続き、通行に危険な箇所の安全対策を行っていきます。
----	---

⑤ 水資源の確保

～安定して利用できる水資源の確保を目指して～

平成22年度の主な取組状況

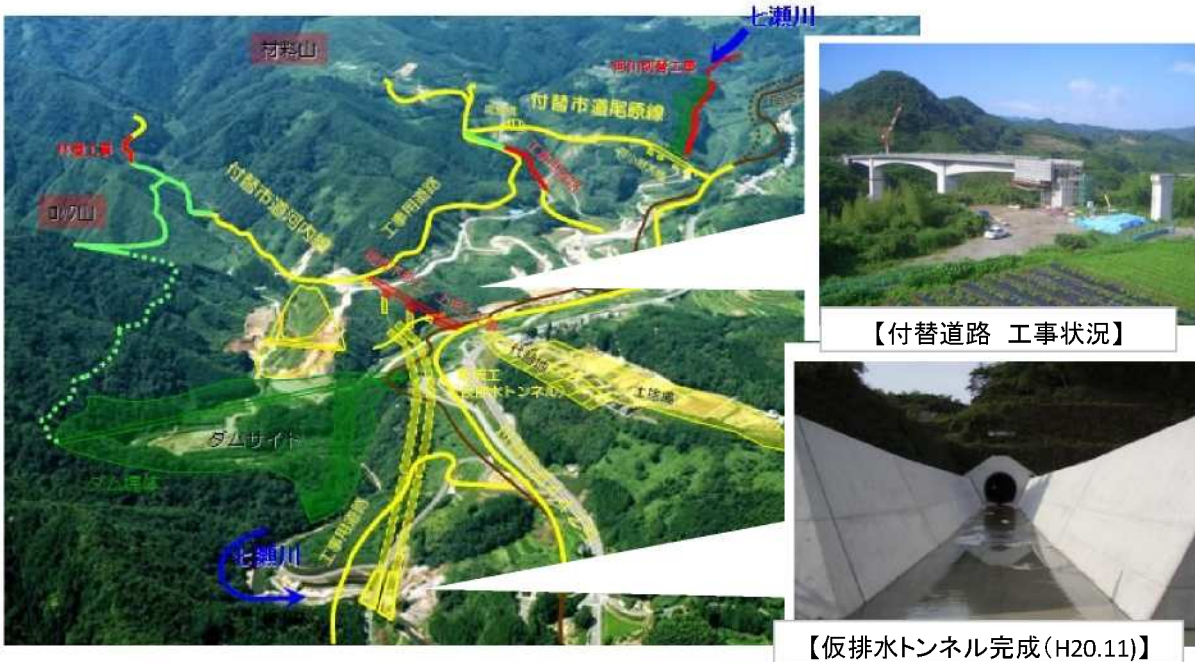
●大分川ダムの整備状況

国土交通省は、洪水時の流量調節(430m³/s)や下流の既得取水の安定供給、河川環境保全のための維持流量確保及び大分市の水道用水の確保などを目的として、大分市大字下原地先にダム建設を進めています。

22年度末の事業進捗率は約52.8%であり、20年11月に仮排水路トンネル工事も終え、現在、市道・林道の付替工事等を行っており、29年度完成を目指していましたが、21年12月の「できるだけダムに頼らない治水」への政策転換を受け、ダム本体工事に着手するかどうかの検証対象となっています。

現在は、「検証の場」を設け検証作業を進めています。

なお、現地には、国道沿いのダム建設予定地に展望台が設置され、工事の状況がご覧いただけます。



●大山ダムの整備状況

独立行政法人水資源機構は、洪水時の流量調節(570m³/s)や下流の既得取水の安定化、河川環境保全のための維持流量確保及び福岡都市圏域や福岡県南地域の水道用水を確保することを目的として、日田市大山町に多目的ダムの建設を進めています。

22年度末の事業進捗率は約67%であり、本体工事、県道・市道・林道の付替工事を実施しています。また、12月20日に本体コンクリート打設が完了しました。

現在は、湛水試験を実施しており、24年度の完成をめざしています。



③ 地震災害への備え

～突然の発生に備え、地域を守るために～

平成22年度の主な取組状況

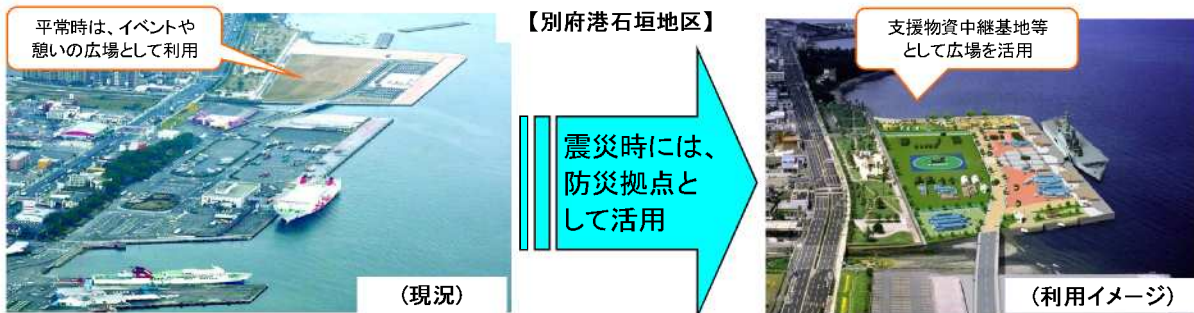
● 緊急輸送路の整備

地震直後から必要となる緊急輸送を円滑かつ確実に実施するため、17年度から19年度の3箇年で、まず県都大分市と12生活圏域の中心都市を結ぶルート等の橋梁の耐震化を進めてきました。20年度から、圏域の中心都市と旧町村部を結ぶ緊急輸送路にある橋梁の耐震化を促進しています。



● 耐震強化岸壁の整備

震災時の防災拠点として、別府港、臼杵港に耐震強化岸壁を整備しています。

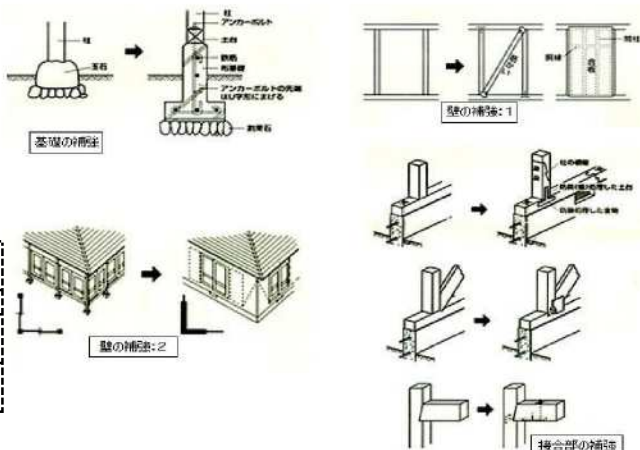


● 住宅の耐震化の促進

木造戸建て住宅の耐震化を促進するため、国・市町村とともに、個人が行う耐震診断(18年度開始)及び耐震改修(20年度開始)の費用助成を実施しています。また、21年度からは、耐震・リフォームアドバイザー制度を創設し、その住宅に応じたマンツーマンでの情報提供を行うこととしています。

(参考)耐震補強工事の事例

- ①基礎の補強 基礎を鉄筋コンクリート造にしたり、断面を大きくしたりします。
- ②壁の補強:1 筋かいや構造用合板を設置します。
- ③壁の補強:2 開口部を減らして筋かいや構造用合板の入った壁にします。
- ④接合部の補強 柱と土台、柱と梁、筋かいと柱等の接合部を金物で補強します。



目標指標の達成状況

		10年前	H16年度 (計画時)	H22年度	H23年度	H27年度 (目標値)
耐震性能を有する住宅の割合 (*H21の実績値は、H20年10月住宅・土地統計調査による推計値)	目標値a	—	—	—	5年毎の調査を元にした指標であるため今年度は算定できません。	90%
	実績値b	35%	68%	H20(70%)	—	—
	達成率b/a	—	—	—	—	—
旧市町村間を結ぶ緊急輸送道路 ルート確保率(橋梁耐震補強)	目標値a	—	—	79%	84%	100%
	実績値b	—	40%	79%	—	—
	達成率b/a	—	—	100.0%	—	—

業績評価

※19年度までは『橋梁耐震補強3箇年プログラム』に基づき橋梁耐震化を実施してきた。今後は、22年5月に策定した『大分県橋梁長寿命化維持管理計画』に基づき、橋梁耐震化を実施予定。

達成	緊急輸送道路における橋梁の耐震化は計画どおり行いましたが、発生が危惧される東南海・南海地震などに備え、更に各種地震対策を推進する必要があります。
----	--